

## インドネシア西ジャワ州におけるメディア環境の変化を背景とした世代別情報行動

白井 華奈

インドネシアでは、人々のメディア利用の形態が時代と共に変化している。新聞や雑誌などの紙媒体の利用者数は年々減少傾向にあるのに対し、スマートフォンやパソコンといった電子媒体の普及率およびその利用者数は上昇傾向にある。インドネシア・インターネット・サービス・プロバイダー協会 (APJII : Asosiasi Penyelenggara Jasa Internet Indonesia) が 2017 年に行った調査によると、2017 年にはインドネシア全国民の約 54% がインターネットを利用しており、インターネットがインドネシアにおいて主要な情報源であることが示唆される。

本調査では、インドネシア西ジャワ州におけるメディア環境の変遷と世代ごとの日常生活における情報行動を明らかにすることで、メディア環境の変化と人々のメディアとの関わりを明らかにすることを目的とする。

本研究は、インドネシアにおけるメディアとインドネシア西ジャワ州出身の四世代 (ベビーブーマー世代、ジェネレーション X、ジェネレーション Y、ジェネレーション Z) を対象とする。文献調査、ウェブサイト調査、インタビュー調査を通して、インドネシアのメディアの変遷や人々のメディアの接触状況を把握した。そして、調査データをもとに、インドネシア西ジャワ州の人々のメディア使用の実態を歴史的背景などの観点から分析し、考察を行った。

予備調査も含め、インドネシアの四世代の人々に行ったインタビュー調査から、年代が下がるにつれて電子媒体の使用率が高くなり、紙媒体の使用率が低くなっていることが明らかになった。しかし、四世代がそれぞれ使用するメディアとそのメディアを使用するに至った背景には差異が見られた一方で、四世代間のメディア使用には共通点も見られた。インドネシアでは古くから口承文化によって生活の知恵・教訓・民族集団の系譜・歴史・信仰などの教えが次の世代へと伝えられたという歴史がある。これらのことから、「読む」よりも「聞く」方がインドネシア人にとって物語やニュースなどを受け入れやすい傾向にあることがインタビュー調査からも明らかになった。この結果は、インドネシア人が読書よりも動きや音のあるテレビなどの映像コンテンツや写真やイラストが多いオンライン・コンテンツを好む傾向にあることと関連づけて説明することが可能である。

本研究はインドネシアの西ジャワ州における四世代のメディア調査であったため、インドネシア全土の人々が使用するメディアとその使用に至った背景が異なる可能性がある。今後は、インドネシア別地域へもこの研究の対象を広げて調査を行うことにより、より詳細な分析をする必要がある。

(指導教員 吉田右子)